

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第5号

令和4年2月9日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同4学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

12月1日(水)

提案 遠藤 泰樹 先生(矢部小)

【会場】

横浜市立矢部小学校

司会 坂本 雄太 先生(下永谷小)

記録 三浦 智 先生(高舟台小)

<提案者より>

教材について

ブルーフラッグ取得のためには、水質調査が4項目33分野あり、何回も調査をしないと行けない。海底清掃を数百人で行う、観光課が300ページの申請書を出さないと行けないなど厳しい基準がある。

視点2

ブルーフラッグを更新することが難しいと実感してほしい。

砂の上を歩いて、様々な立場で考えたり、300枚の紙で申請書の多さを感じたりした。

体験することで、難しさを感じ、本気の学習問題へとつながるようにしていった。

『毎年審査を受けて更新する必要がある「ブルーフラッグ」を毎年取得しようとしたのか』という問いに対して、「安心安全」は、児童からでると考えていた。漠然と考える「安心安全」を具体的にしていくために由比ガ浜での取り組みの映像を見せた。

考察

児童の必要感がないまま、資料を出してしまった。資料の提示はどのタイミングがよかったのか。また、映像資料は、1回見ただけでは、内容の理解が難しいと思っていた。そのため、映像内容の発言を切り取ったものを掲示しようと考えていたが出せなかった。その資料があれば、「地域が一体となって」「持続可能」などの言葉から、Mさんの願いに迫っていったのではないかと考えている。

それでも、これからの藤沢市はどうなっていくのかについて、児童から「誇りをもっていける」という言葉がでてきたのはよかった。

<協議内容>

Q藤沢市での実践は、ほとんど聞かないが、なぜ藤沢市を取り上げようと思ったのか。

A藤沢市と戸塚区は隣接している。江の島方面へ出かける児童も多く、単元の導入がスムーズにいくと思った。また、海水浴客の全国1位は、インパクトがあると思った。それが、単元を見通す学習問題を考えるときに「なぜ全国1位なのか」という問いにつながると思った。

視点2

Q由比ガ浜の映像資料の意図は？

A「地域とのつながり」「安心安全」「持続可能」を読み取り、ブルーフラッグが目的ではなく、とるまでの過程が大切であることに気付いて欲しかった。

Q本時の学習問題について、どのような考えをもとに着地していくと考えていたのか。

Aこれまで学習したことを生かして具体を出しながら、藤沢市の発展について考えていく。取り組む過程が大切であり、地域が一体となって取り組むことで海岸がきれいになり、観光客も増

えていったということを捉えるために設定した。あくまでブルーフラッグは、努力したことの証明にすぎない。

- ・ 鵜沼海岸に住んでいるが、市民の立場として知らなかった。ビーチクリーンに月に一度参加しているが、それは、観光客を増やしたいわけではない。鎌倉市の実践で「まちをきれいにする会」を取り上げたが、そこでも観光客を増やしたいから活動しているわけではなかった。立場によってまちを愛する形は様々で、本時でも様々な立場の人が混ざっていた。一括りで捉えるのではなく、立場によって考え方が違うことに気付けるとよかった。
- ・ Mさんの願いとブルーフラッグを取得することの関係性があいまいではないか。「安心安全をどうして求めているのか」「海岸の整備が観光客の増加・地域のつながりを強める」という点で児童は腑に落ちていないのではないか。「取り組みによって他の海水浴場に比べて由比ガ浜は、増えている」という事実、それと藤沢市の海水浴場と比べていくと効果があるのではないか。

Q「未来の藤沢市がどうなっていくのか」についてどんな視点で考えて欲しかったのか。

A藤沢市が、環境を生かしたまちづくりを進めていることを考え、未来に向けて自分たちが誇りに思うまちの環境を残していこうとしていることについて考えて欲しかった。

- ・ 藤沢市の発展とは、経済的なところもあり、児童の発言にも出てきた。実際にどんなことが起きたのか、具体的な姿がわかる資料が必要ではないか。
- ・ 児童にとって難しい話だったのではないか。まちづくりにもっていきにくかったように思えた。Mさんすごいな。藤沢市すごいなにつながってようにしていけるといい。

<講師の先生より>

○教育課程推進室 指導主事 森 圭一朗 先生

学習問題については、「何のために」は、考える範囲が広がったのではないか。情報量が多く、たくさんやっているからいいものだと判断していないか。本当に考えるところはどこなのか、焦点化していきたい。

今回の授業では、「この人にとっては、こんなよさがある」とそれぞれの立場にとっての意味を捉えて、総合的に考えていくとよかったのではないか。

「観光客離れ、海離れ」といったマイナス面の事実をしっかりとらえるようにして「なんとかしないといけない」という人々の考えを掴んでいく必要がある。

由比ガ浜での具体的な課題と成果が提示することで藤沢市での取り組みの意味が見えてくる。

○文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登 先生

教材にかける思いが素晴らしい。この教材をこれから磨きをかけていかないと本質が見えてこないし、一般化していけない。

県内の特色のある地域では、住んでいる市以外の地域から3つを選ぶ。内容は違うが、展開はかわらないので見方・考え方を次に生かすことができる。指導要領の内容の取り扱いに「よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている」とあるが1つ目の地域だけでここまでおとすのは難しい。類似性が高く、予想・計画も立てやすいので3つの地域を学ぶ中でまちの発展におとしこんでいくとよい。

人に着目した事例（Mさん）を通して、社会的事象（藤沢市のまちづくり）の本質を考える。

それまでの学習してきたことをもとに問題を解決すると社会的事象の問題とつながるのかを考えて学習計画を立てていきたい。また、学習計画を立てるときに、本当に問いとして並ぶのかを考えて欲しい。単元を見通す学習問題の予想から考えていく必要がある。

今日の時間の位置づけとして、単元目標と関連付いていたのか、社会的事象の意味について考えることにつながっていたのか考え直す必要がある。今まで学んできたことには、こういう意味があったのかと総合的に掴ませるようにしたい。

予想を立場で整理することによっていろんなことが出てきたのではないか。きれいな海を守るためにみんなが活躍している。その活動の1つとしてブルーフラッグ取得への取り組みということが根拠になる。